



AT-MWS GP シリーズ リリースノート

この度は、AT-MWS GPシリーズをお買いあげいただき、誠にありがとうございます。
このリリースノートは、マニュアルに記載されていない内容や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。
最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ファームウェアバージョン 1.0.0

2 重要：注意事項

2.1 無線コントローラーとアクセスポイントのサポートバージョンの対応

	AT-MWS600AP AT-MWS900AP V.1.0.0 以降	AT-MWS1750AP V.1.0.1 以降
AT-MWS GP V.1.0.0	○	○

○はサポートしている組み合わせです。

3 本バージョンでの制限事項

ファームウェアバージョン 1.0.0 には、以下の制限事項があります。

3.1 無線 LAN コントローラー

[リファレンスマニュアル](#) >

2. Controller Management > 2.2 Device Management > Access Points

無線 LAN コントローラーのアクセスポイント管理画面において、使用できない記号を含む SSID を追加しようとすると、空のエラーメッセージが表示されることがあります。

3.2 VLAN

[リファレンスマニュアル](#) >

3. Switch Management > 3.3 VLAN > PVID

VLAN > PVID 画面では、ポートの PVID として、他にメンバーポートが存在しない VLAN を指定してもエラーになりませんのでご注意ください。

3.3 システム情報 (sysLocation、sysContact)

 [リファレンスマニュアル](#) >

3. Switch Management > 3.4 Management > System Information

Management > System Information 画面では System Location と System Contact にスペースを含めることができますが、SNMP 経由ではスペースを含む文字列を設定できません。スペースを使用する場合は Web 設定画面から設定してください。

3.4 SNMP/RMON

 [リファレンスマニュアル](#) >

3. Switch Management > 3.4 Management > SNMP

3. Switch Management > 3.8 Monitoring > RMON

RMON の Alarm トラップは、RMON イベントテーブルで指定したコミュニティ名と関係なく、Management > SNMP > Trap Settings で登録したすべての SNMP マネージャーに送信されます。

3.5 RADIUS クライアント

 [リファレンスマニュアル](#) >

3. Switch Management > 3.7 Security > Radius Server

- Security > Radius Server の Timeout Reply を変更しても、変更後最初に送信する RADIUS パケットについては変更前のタイムアウト値で動作します。その後は、変更後のタイムアウト値にしたがって動作します。
- Security > Radius Server の Timeout Reply は 1 ~ 20 秒の範囲で設定してください。20 秒より大きい値を設定しても 20 秒のタイムアウト値で動作します。

3.6 ケーブル診断

 [リファレンスマニュアル](#) >

3. Switch Management > 3.9 Diagnostics > Cable Diagnostics

Diagnostics > Cable Diagnostics の Test 実施結果において、ツイストペアケーブルのペアが切断状態のときは Open と表示されるべきですが、Linedriver と表示されることがあります。

4 マニュアルの補足・誤記訂正

4.1 サポート対象外の機能と設定項目

 [リファレンスマニュアル](#)

下記の機能と設定項目はサポート対象外です。

- バンドステアリング
 - ・ Device Management > Access Points > (デバイス名) > Wireless Settings > Advanced Settings > Band Steering
 - ・ Device Management > AP Profiles > (プロファイル名) > Profile Setting > Advanced Settings > Band Steering

バンドステアリングを有効にすると、2.4GHz のみに対応する無線クライアントでは接続が不安定になることがありますので、バンドステアリングを無効にしてお使いください（デフォルトは無効です）。

- **夏時間設定**
System > System Time > Daylight Savings Time
- **MLD Snooping**
L2 Feature > MLD Snooping
- **コマンドラインインターフェース (CLI)**
コンソールポート、Telnet、SSH 経由での CLI アクセスはサポート対象外です。また、これに関連して下記の設定項目もサポート対象外になります。
 - ・ **Telnet サーバー設定**
Security > Access > Telnet Settings

ただし、Telnet サーバーの有効・無効を変更する「Telnet Service」項目だけはサポートします。Telnet サーバーはデフォルト有効ですが、Telnet サーバーへのアクセスはサポート対象外のため、「Telnet Service」項目を Disabled に設定して無効化することをおすすめします。
 - ・ **SSH サーバー設定**
Security > Access > SSH Settings
 - ・ **コンソールポート設定**
Security > Access > Console Settings

4.2 スイッチポートの通信モード

 [リファレンスマニュアル >](#)

[Switch Management > 3.1 System > Port Settings](#)

- 100M ファイバー SFP を使用するポートの Mode 設定は Auto のみをサポートします。
- 1000BASE-T SFP を使用するポートの Mode 設定は Auto のみをサポートします。また、同ポートの動作はオートネゴシエーションによる 1000M Full-Duplex 通信のみをサポートします。

4.3 無線 LAN コントローラー

 [リファレンスマニュアル >](#)

[2. Controller Management > 2.2 Device Management](#)

- 無線 LAN コントローラー機能では、管理下に置いたアクセスポイントの機能のうち、下記機能の設定、使用はできません（併記しているのは、単体動作しているアクセスポイントの Web 設定画面におけるメニュー項目です）。
 - ・ **IPv6 設定**
Network > Basic > IPv6 Settings
 - ・ **ワイヤレス MAC フィルター**
Network > Wireless > Wireless MAC Filter

- ・ 各種管理機能 (SNMP、HTTPS、Email、日時、WiFi Scheduler 設定など)
Management
 - ・ 設定のバックアップ・リストア
System Manager > Backup/Restore
 - ・ ログ設定
System Manager > System Log
- 単体で使用していたアクセスポイントを無線 LAN コントローラー機能の管理下に置く場合は、事前に該当アクセスポイントをご購入時の状態 (Factory Default) に戻す必要があります。
- 無線 LAN コントローラー機能の管理下にあるアクセスポイントの Web 設定画面では、該当アクセスポイントの状態確認だけが可能で設定変更はできません。
- 無線 LAN コントローラー管理下でのみ使用可能な Fast Roaming 機能 (SSID Config 画面) は、2.4GHz、5GHz それぞれの SSID 一覧画面における ID=1 の SSID でしか動作しません。
- 無線 LAN コントローラー機能と管理下アクセスポイントの通信が途絶えても、該当アクセスポイントはその時点の設定内容で動作を継続します。

4.4 PoE の給電仕様

 [「AT-MWS GP シリーズ 取扱説明書」\(Rev.A\) 35 ページ](#)

 [リファレンスマニュアル >](#)

[Switch Management > 3.1 System > PoE](#)

PoE 機能の仕様説明において一部誤りがありましたので、以下のとおり訂正いたします。

- 「ポートへの電力の割り当て」において、受電機器の電力クラス、または手動設定した上限値にもとづき、システム全体の最大供給電力 (Total Power Budget) から一定の電力を特定のポート用に確保する (割り当てる) という説明がありますが、実際にはこのような確保は行いません。

また、「本製品の PoE 給電仕様」に「同時に給電可能なポートの最大数」を示す表がありますが、最大数が受電機器の電力クラスやポートの出力設定をもとに算出されることはありません。同表の「同時に給電可能なポートの最大数」は、各ポートから該当クラスの上限にあたる電力を出力する場合の最大数とお考えください。

本製品はシステム全体の供給電力に余裕があるかぎり、新規に接続された受電機器への給電を開始する仕様であり、ポートへの給電を停止するのは次に示す 2 つのケースだけです。

- ・ システム全体の電力使用量が最大供給電力を上回った場合
- ・ ポートの出力電力が各ポートの上限値を超えた場合

そのため、消費電力が電力クラスの上限に達していない受電機器の場合 (たとえば、消費電力 15W のクラス 4 受電機器の場合) は、前述の表に記載されているよりも多くのポートに給電できる可能性があります。

ポートへの出力電力は、受電機器の実際の電力使用量にもとづいて決まりますので、接続する受電機器の最大消費電力とケーブル上での損失分を考慮し、電力配分の見積もりを行ってください。

以下、上記の訂正をふまえ、PoEの給電仕様についてまとめます。

- システム（装置）全体の最大供給電力は次のとおりです。

- ・ AT-MWS2012GP : 130W
- ・ AT-MWS5028GP : 185W

初期設定では、Web GUIの全体設定項目「Total Power Budget」にこの値が表示されていますが、同項目にこれより小さな値を設定することで、システム全体の最大供給電力を制限することも可能です。

システム全体の電力使用量が「Total Power Budget」を上回った場合、給電中のポートのうち、優先順位のもっとも低いポートへの給電を停止します。

ポートの優先順位はWeb GUIのポート設定項目「Priority」（Critical > High > Medium > Low）によりますが、同じ優先順位のポートが複数ある場合はポート番号が小さいほど優先順位が高くなります（ポート 1 が最優先）。

なお、システム全体の電力使用量はWeb GUIの表示項目「Consumed Power」で確認できます。

- 1ポートあたりの最大供給電力は30Wです。

ただし、実際にポートから出力する電力の上限は、Web GUIのポート設定項目「Power Limit Type」の設定によって次のように決まります。

- ・ Auto Class（初期設定）

ポートに接続された受電機器の電力クラスで規定されている「給電機器の電力」（下表参照）が上限になります。

クラス	受電機器の電力	給電機器の電力
0	13.0W	15.4W
1	3.84W	4.0W
2	6.49W	7.0W
3	13.0W	15.4W
4	25.5W	30.0W

- ・ User Defined

Web GUIの設定項目「User Power Limit」に入力した値が上限になります。「User Defined」に設定したポートでは、接続された受電機器の電力クラスの情報は使用されません。

ポートの出力電力が上記の上限を上回った場合は、該当ポートへの給電を停止します。

5 サポートリミット一覧

パフォーマンス	
VLAN 登録数	4094
MAC アドレス (FDB) 登録数	8K
IPv4 ホスト (ARP) 登録数	-
IPv4 ルート登録数	-
リンクアグリゲーション	
グループ数 (筐体あたり)	8 ※ 1
ポート数 (グループあたり)	8
ハードウェアパケットフィルタ	
登録数	256
認証端末数	
認証端末数 (ポートあたり)	1 ※ 2
認証端末数 (装置あたり)	-
マルチプルダイナミック VLAN (ポートあたり)	-
マルチプルダイナミック VLAN (装置あたり)	-
ローカル RADIUS サーバ	
ユーザー登録数	-
RADIUS クライアント (NAS) 登録数	-
その他	
VRF-Lite インターフェース数	-
IPv4 マルチキャストルーティングインターフェース数	-

※ 表中では、K=1024

※ 1 スタティックチャンネルグループと LACP チャンネルグループを合わせて 8 グループまでサポートします。

※ 2 IEEE 802.1X 認証モードは Single Host のみをサポートします。

6 最新マニュアルについて

最新の取扱説明書 (613-002027 Rev.A)、リファレンスマニュアル (613-002089 Rev.B) は弊社ホームページに掲載されています。

本リリースノートは、これらの最新マニュアルに対応した内容になっていますので、お手持ちのマニュアルが上記のものでない場合は、弊社ホームページで最新の情報をご覧ください。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>